

福岡がんピアサポート講座 第8回 (全10回)

九州がんセンター 2F会議室にて



この講座が実現したのは、日本対がん協会のテキストとDVD、そして九州がんセンターの全面的な支援のおかげです。ピアサポート(=同じ病気の仲間による支援)が日本のがん医療の場で今後必要とされてくることを受けた企画です。

-2013.8.23 Fri 13:00 ~ 16:00



第8回目 講義内容

1 限. 13:00(30分) DVD視聴

2 限. 13:30(15分) **がんと就労アンケート調査**
(司会：峰平あけみ)

3 限. 14:00(120分) **ロールプレイの必要性と実践**
(講師：白石 恵子/ 心理療法士)
(提言：大島 彰/ サイコオンコロジー科 医長)

「ピアサポート」とは

ピアサポートとは、がんという病気を体験した人や家族が、ピア(仲間)として「体験を共有し、ともに考える」ことにより、がん患者やその家族などを支援していくこと。ピアサポートを行う人を「ピアサポーター」と言います。

良いコミュニケーションをとる、とは 自分のクセに気付くこと



ピアサポート講座第8回目は、模擬相談のDVDを30分視聴後、ロールプレイを全員で一斉に行いました。相談役、ピアサポーター役、観察役

の3人組を10グループ作り、ファシリテーターを各グループに1名

ずつ配置。まず白石先生がシナリオを説明された後、それぞれのグループで、シナリオに書かれてあるセリフを盛り込みながらの実践。3人で役を交替しながらロールプレイ3分とシェアリング5分を3回行います。シェアリングとは、ロールプレイを通じて感じたことを話し合うこと。**ものすごく長く感じた**という感想もあったロールプレイの3分間。相談役の人は、セリフを言う事で患者になりきり、会話はその場の雰囲気で作ります。例えば、「**患者役**：何か話して良いか…(緊張し少し気まずい雰囲気)」。全摘でない方法を知りませんか。やはり手術を受けないといけなんでしょうか？代替療法で治った人はいませんか。」「**患者役**：家事・仕事も上の空で、何もする気がおきないんです。どうすればいいの？」等々。サポーターが戸惑いそうなセリフばかり。ピアサポーター役の人は相談者の深層心理を引き出しながら、相槌や質

Fukuoka, JP □□□□

33°C Fri, 23. Aug. 2013



問を入れつつ心地よく話してもらえるように工夫をしなければいけません。また観察者は2人をよく見て、実際に取り入れたいコミュニケーション法を探っていきます。講義の終盤では2グループが合体してシェアリングを行います。自分のグループで学んだことを別グループの人に伝えたり意見を交わすことで、気づきを得る時間。「喋りまくってしまう」「わーっと言われると焦る」など、初めて自分自身の癖に気付いたという声が多数挙がりました。

最後はロールプレイを終えての、振り返りの時間。グループごとの発表内容に対する改善点を全員で考えます。他のグループから、こんな捉え方も出来るのでは？と助言されることで自分の考え方を180度変えることができたり、自分になかった捉え方や考え方を知る経験をすることで、相談者側の気持ちにも近付けます。どんなタイプの患者の感情も受け止めなければならないという事はとても難しい役のように思えますが、起こったことを全員で考えて密な連携姿勢を取ることを心がける事で、ピアサポーター同士も仲間になり、同じ悩みを共有する体験が得られたように感じました。

相談者から醸し出される雰囲気や、身体のコワバリから何かを感じ取れるかどうか

大野先生によると、医師の仕事も、患者のネガティブな感情を受け止めることから始まるとのこと。しっかり話を聴いて安心できる関係性を築き、時には励ます。でも患者全員に対してそこまでの医療を行うには、医療従事者だけでは力不足。ピアサポーターが常駐したり、患者主体のカウンセリングが行えるような体制が整った施設が今後増えていくように願ってやみません。

また、心理療法士の白石先生の講義では、ピアサポーターとして参考になる部分が多くあります。例えば相手より一歩スピードを落として話すこと。こうするだけで興奮した患者は落ち着いてくる、と。言葉ではない何かを感じ取り察することで、患者との距離の計り方や接し方を臨機応変に使い分けることが大切だそう。言葉ではない何かとは難しいことではなく、**体のコワバリ**や**相談者から醸し出される雰囲気**、または**何回会ったかなどの関係性**など、とのこと。でも言葉以上のことを感じ取るには間合いや空間などもある程度必要で、医師・看護師・臨床心理など医療従事者だけではそこまでの時間も場所も充分だとは言えません。コミュニケーションをきちんと取って患者の感情に寄り添いたいと思うのは医療従事者もピアサポーターも同じですが、がんの治療体験をしてきた身体を通して患者さんと関わることは、ピアサポーターにしかできない決定的な強みなのだと思えます。ロールプレイをすることで、生徒の質問内容も具体性のあるものが多く、実際に相談に乗るときの事を皆イメージしやすかったようです。次回の講座第9回はNPO法人名古屋ミーネットの花井美紀理事長をお迎えし、**ピアサポートの現状とこれから**をテーマに公開講座を開催いたします。是非多くの皆さまのご来場をお待ちしております。